

実践報告

神戸市小学校 JSL 教室支援員の合同オンライン勉強会「ゆる～くて濃い勉強会」 ～ひとりで指導の悩みを抱えがちな JSL 教室支援員同士がつながり、ともに学ぶための試み

石井 真未枝(こうべ校内 JSL 研究会・神戸市小学校 JSL 教室支援員)

1 実施の背景

神戸市では小学校 7 校において、小学校 JSL 教室支援員(以下、支援員)による取り出しの日本語授業が行われている。授業はマンツーマン、小グループで行われ、各支援員の担当する児童が決まっており、年間を通して継続的に指導しているケースが多い。指導内容についての指針、指示は示されておらず、日本語教師有資格者である各支援員の裁量に委ねられている。

支援員は担当授業時のみ勤務する会計年度任用職員のため、多忙な学校教員や他の支援員との十分なコミュニケーションの機会確保が難しい。さらに、支援員の一斉研修などは実施されておらず、他校での実践について知る機会も乏しい。

そのため、多くの支援員が「自分の行っている指導内容、方法は適切なのか」と不安を抱きながらも、それを相談、共有できる機会が得られず、試行錯誤しているのが現状である。

2 目的、実施までの経過

市内支援員の情報共有、指導スキルアップのため、市教委に対して研修、連絡会等の実施を要望してきたが、実現には至っていなかった。そんな中、コロナ禍でオンライン会議を経験する人が急速に増えたことから、オンラインによる自主的な合同勉強会を企画した。「ゆる～く」任意で気軽に参加し「濃く」学べる会になるよう「ゆる～くて濃い勉強会」と名付けた。実施は東灘区の小学校で活動する支援員からなる「こうべ校内 JSL 研究会」と、養成講座を実施して支援員を送り出してきた「外国にルーツを持つ児童のための学習支援学校ボランティア研究会(がくボ会)」との共催とし、ロコミで参加希望者を募った。

3 実施内容

勉強会はこれまで 2 つのテーマで行い、いずれも ZOOM を使用した。

1、「DLA マニュアルを一緒に読もう」(2020 年 8～11 月 5 回実施、参加者 11～20 名)

参加者は事前に「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」の指定箇所を読み、疑問点、経験談などをオンラインの共有ドキュメントに書き出しておき、オンライン勉強会では、それを議題にグループディスカッション、全体共有を行った。

2、「教材についておしゃべりする会」(2021 年 4 月実施 参加者 15 名)

参加者は事前におすすめの教材についてパドレット(オンライン掲示板ツール)に投稿しておき、オンライン勉強会では、パドレットを見ながら各教材について話し合った。作成したパドレットは共有の教材リストとして、終了後も随時、新規投稿、更新されている。

4 勉強会の成果、課題

勉強会後の参加者アンケートでは以下のような「これまでの経験、知識を共有できたことに感謝する」旨のコメントが多数寄せられた。

「会を重ねるごとに、発言者の数が増え、活動場所が異なる参加者さんたちと、現場の悩みや醍醐味を前向きに共有できる喜びを感じています。」

「皆さんが同じように日々悩みながら活動をされていることを知り、その悩みや経験を共有できることがありがたいです。励みにもなりますし、自分の実際の活動をどうやるか、ヒントをいただいている感じです。」

他に「勉強会を話題にして、普段の活動時にも支援員間の情報交換が以前よりしやすくなった」という声もあり、支援員同士がつながり、悩み、不安を解消するという目的については満足度が高かったと言える。

また、以下のような子どもとのかかわり方についての気づきのコメントも多かった。

「今回勉強したことが全て普段の支援に役立つことだと感じています。常に自らを俯瞰し子供を観察して、能力を引き出すための問いかけや誘い水を投げかけてやれるか、難しいことですが努力していきたいと思います。」

「(DLAの「読む」について)『子どもの力を信じる』ことに気付かされてよかったです。テスターにその気持ちがあれば、子どもはたくさん話したくなるのですね。『どんな風にしたのだろう』『どこが印象深かったのだろう』と子どもの発話を楽しんで引き出したいと思いました。」

勉強会終了後も参加者メーリングリスト等を通じて支援者間の交流は続いており、新たなテーマの提案がされるなど、参加者の多くが今後の勉強会継続に積極的、協力的である。活動場所は異なるものの同じ条件で活動する支援員15名前後で継続的に対話を重ねていくスタイルは、互いの顔がよく見え、関係構築がしやすく、それぞれが対話から学ぶには有効だった。

一方、講師がおらず、疑問点が解決できないまま残ったり、能動的な参加が求められることに負担を感じたのか、参加をとりやめる人が出たりすることが課題であった。勉強会に参加していない支援員も議事録や教材リストを閲覧可能としているが、広報も口コミだけであったため、支援員全員に周知されたとはいえない。

これらの課題をカバーできるであろう市教委による講師を招いた研修、連絡会実施の要望を出しつつ、本勉強会で得られたつながり、学びもさらに深めていきたい。